

# 1. 巻 頭 言



## マネージメントが増えました、若松病院で透析を始めました、病院建替えの検討が始まりました。

第2内科学教授 尾 辻 豊

2016年度の御挨拶を申し上げます。教育に関して産業医科大学は国家試験の成績が芳しくなく、111人受験し101人合格という結果となりました。全国80医学部の中では標準的な成績ですが、産業医大の目標には届かなかった結果です。医学部長・教務部長を中心に教育を大きく改革させる動きが始まると思います。院内のマネージメントが増えてきて、会議がとにかく多いです。医療安全に関する会議は内容が濃く、90分ぐらいですが終わった時はヘトヘトです。時代の要請で完璧を期さないといけなくなり、今後の医療活動は全てのメディカルスタッフにとって非常に厳しくなると思います。病院の建て替えも見据えて診療の効率化が大きな課題になっています。やるべきことは多く、どこから手をつければ？という感じです。このような中で今年は若松病院の外来透析が始まりました。長らく「侵襲的診療のない循環器・透析のない腎臓」という課題をどうやって克服すべきか？悩んでおりましたが、ようやく片一方の問題はクリアしました。以前から循環器グループの医師全員に透析を行えるようになって欲しいと思っておりましたので、若手医師に人気の施設となると思います。

腎臓グループは医生ヶ丘の大学病院や若松病院で診療に頑張っているのは言うまでもありませんが、2015年は日本透析医学会総会で4題、日本腎臓学会総会で4題、米国腎臓学会で1題など、多数の学会発表を行いました。日本腹膜透析医学会で久間先生がYIA賞、福岡県医学会総会で眞田先生がポスター優秀賞を受賞されました。中野先生が腎臓専門医、中俣先生が透析専門医を取得し、久間先生はWNT10A発現線維芽細胞と急性間質性腎炎との関連についての論文をPLoS Oneに発表、松本先生が新しい腹膜透析液の主成分であるicodextrinの生体適合性についての論文をLife Sciencesに発表し、それぞれ医学博士となりました。昨年は腎臓グループへの新加入も3名あり、ますますグループに活気が出てきています。臨床におきましても、腎生検件数が116件、新規透析導入数81件、バスキュラーアクセス関連手術数101件、シャント造影・PTA数98件と、過去最多レベルの状況が続いています。また、保存期腎不全患者を対象に腎臓病教室を行っています。医師に加えて看護師、栄養士などのチームで、患者さんの腎不全リスクに立ち向かっています。不整脈グループも躍進を続けています。3名の不整脈専門医を中心として、デバイス治療は例年同様、盛んに行っています(135件)。アブレーションも全ての頻拍性不整脈について症例数も伸びて過去最多の93件となり、良い治療成績を収めています。学術面でも多くの国際多施設共同研究への参加や単独臨床研究の論文発表を行い、エビデンスの構築に寄与すると共に、デバイス患者の社会復帰への取り組みや、産業医学実務研修センターとの共同研究を通じて、大学の使命にも貢献しています。心カテグループでは、心臓カテーテル検査、カテーテル治療の年間件数も順調に伸びています。緊急治療や下肢血管の治療件数がさらに増加しており、総カテーテ

---

ル治療数は278例で昨年に引き続き過去最高を記録しました。治療成績もとても良好です。特にプレッシャーワイヤーや血管内イメージングガイドの治療を先進的に行っており、11月にはOCT（血管内イメージング）のワークショップを開催し当院に全国から若手医師が沢山訪れました。全国の主要施設にも冠動脈イメージングの指導のため訪問しており、日本心血管インターベンション治療学会研修施設として中心的な役割を担っています。心臓リハビリテーションも順調に行っています。また研究面においても、引き続き多くの多施設共同研究に代表施設として参加しています。今年もOCTで行った研究(OPINION)の結果がインターベンション分野ではヨーロッパ最大の学会であるEuroPCR(本年5月開催)におけるLate breaking trialとして報告されました。ACCやESC等の国際学会や日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心血管インターベンション治療学会でも多く発表を行いました。今年4月からはスタッフが一人増員し、大学院生も計3名となりさらにグループの活気が出てきています。心エコーグループでは、通常のエコー検査だけでなく、負荷エコーや経食道エコーを幅広く活用し、弁膜症や心不全の診断・治療に積極的に取り組んでいます。また、日本循環器学会総会や海外学会で多数の学会発表を行うなど、臨床研究に精力的に取り組んでいます。永田先生が3次元エコーによるストレイン解析が大動脈弁狭窄症の予後予測に有用であることを論文として発表し医学博士となりました。これまでエコーグループを率いてこられた竹内先生が教室を移動されましたが、新たに尾上先生が大学院生としてグループに加わり、少し若くなったメンバーで元気よく診療と研究に取り組んでいます。若松病院循環器内科・腎臓内科ですが、三階病棟の一角を人工透析室に改築し、本年5月より外来血液透析を開始しました。10床のベッドと小規模ではありますが、侵襲的検査・治療ができないという今までの弱点を一つクリアできる事になります。また心大血管リハビリテーションと睡眠時無呼吸診療に関しても着実に数字を伸ばしています。特に心リハに関しては開設当初から数えて延べ8700件を超え県内有数の心リハ施設に成長しています。睡眠時無呼吸のポリソムノグラフィー検査に関しては、昨年夏からは月10件ペースで行っており、それにつれてCPAP導入症例も着実に増加しています。また若松近隣の開業医の先生方からの御紹介も増えてきました。

2014年年4月から副院長(体制整備・人材育成担当)を拝命しており、この仕事がドンドン増えてきます。前述の医療安全もしかり、産業医大病院にどうやって優秀な研修医にたくさん集まってもらえるか?も大きな課題です。今年度に向けて昨年行われたマッチングではフルマッチしたのですが、卒業・国試で3名の研修医枠が欠員となりました。不可抗力に近いですが、改善するところがないか?考えています。少子高齢化で税収が減る中ですが、病院建替え(2020年ぐらいを想定)のためにも頑張らねばなりません。開学当初、有田焼きの赤煉瓦を使って病院建築されたそうですが、大震災復興・東京オリンピックに向けて建築需要・価格がうなぎ上りの中での建て替えとならざるを得ません。やるべきことは山積していますが、やれることを一つずつして行くつもりです。とは言っても、人生を楽しむことも大事で、健康管理が最重要です。これを兼ねて卓球をけっこうやっています。昨年は40回練習しました。1回2時間弱です。今年50回が目標です。学生とも年間10回程度卓球をして、レギュラークラスにはなかなか勝てませんが、私に勝つことを目指している学生もいます。石田卓球という名門のところでコーチに習っていますが、すごくゆっくりとですが上達するようになります。あるいは錯覚かもしれませんが、今後ベストを尽くす所存ですので、同門の皆さまからのいっそうのご支援・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。